

置賜総合支庁推薦

—接ぎ木技術を継ぐ—

ぶどう苗木の宝庫 伊佐沢

い さ ざ わ



BK シードレス

デラウェア

シャインマスカット

(株)カワイぶどう園の苗木ほ場

「日本ワイン」と「国内製造ワイン」の違い

日本ワイン

国産ぶどうのみを原料とし、日本国内で製造されたワイン

国内製造ワイン

日本国内で製造された果実酒・甘味果実酒
濃縮果汁などの海外原料を使用したワイン

これに加え、日本ワインが世界的に評価されたことで日本ワインブームが巻き起こり、ぶどう苗木の需要が全国的に高まっている。

実はいま、ぶどう苗木生産は転機を迎えている。平成30年に「果実酒等の製法品質表示基準」が制定され、「日本ワイン」と記載するための条件が厳格化されたのだ。

山形県南部に位置する長井市伊佐沢(いさざわ)地区は、傾斜地特有の日照時間・土壌の水はけのよさなど、恵まれた地理条件を活かし、全国屈指のぶどう苗木生産地となっている。

ぶどう苗木 生産需要の高まり

Uターンを決意して

河井さんは、曾祖父母が始めた「河井葡萄苗圃」の4代目として平成29年に就農した。東京で一度は就職したが、実家の入不足と転職を考えた時期が重なり、就農を決意した。

苗木は2.5 ha、贈答用のぶどうや穂木・台木の生産を含めると約4.4 haのほ場を管理している。種苗業者やワイナリーからの委託により生産される苗木は100種類にのぼり、年間5万から6万本を全国に出荷している。人気のあるシャインマスカットの苗木は台木の組み合わせで10種類生産しているという。

「他の果物と比べて分留まりが悪く、労働時間も長いと言われるぶどうの苗木生産だが、栽培量や品質向上に努めていきたい」と意気込みを話してくれた。



誘引作業を行う河井さん

誘引とは

風にあおられて苗が倒れないよう、枝を支柱に結び付け樹形を整える作業

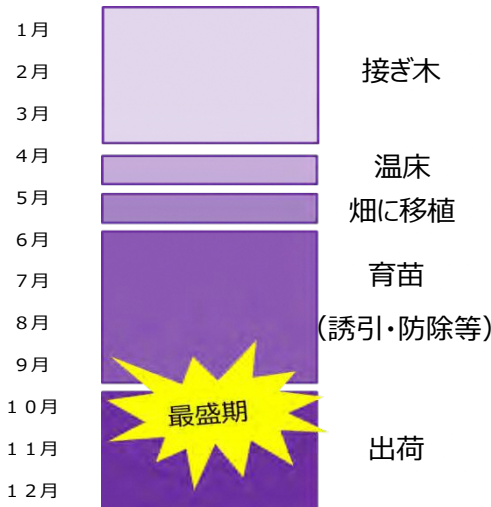
技術を「つぐ」

果樹の中で分留まりが悪く、手間と技術が必要とされるぶどう。

「苗木の生産は父や祖父の経験から培われた独自の技術がある」と話す貴郁さん。父から受け継いだ技術で品質を保ちながら生産量の増加を目指す。

将来的にはぶどう果樹の生産にも力を入れていきたいと意欲的で、現在は果樹の品質確保や安定生産に重要なぶどうの木の剪定方法を父とともに検討している。

苗木生産の1年



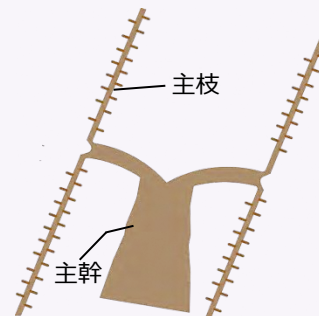
ぶどう剪定の豆知識

ぶどう果樹の安定生産には、1月頃に行われるぶどうの木の剪定作業が重要になる。剪定には次の2つの方法がある。

短梢剪定 (たんしょうせんてい)

前年までに伸びた枝を2つ目の芽まで残して短く切り詰める方法。

- ・管理が容易で初心者向け
- ・短梢剪定に向けた品種
シャインマスカット・ピオーネなど



長梢剪定 (ちようしょうせんてい)

残す枝の芽を5〜10と多く残す方法。

- ・長い梢を選抜する技術が必要
- ・長梢剪定に向けた品種
デラウェアなど

